



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和7年1月8日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



両小今昔 お正月 風物詩考

校長 渡邊 圭三

あけましておめでとうございます。保護者や地域の皆様方におかれましては、新春を迎え、御健勝のこととお慶び申し上げます。本年も本校に対する変わらぬ御理解・御支援のほど、よろしくお願ひいたします。

さて、本校の校歌は1936年・昭和11年の11月に制定されています。作詞したのは、千家尊福（せんげ たかとみ）公。出雲大社の宮司であり、東京府知事を務められ、「年の始の例（ためし）とて…」で始まる文部省唱歌「一月一日」の作詞者でもあります。私が小学生の頃は、芸能人の「新春隠し芸大会」で流れる曲というイメージがあり、家族揃ってテレビの前でお正月の気分を満たしてくれる風物詩の一つでした。その昔の両國小界隈の正月風景がどのようなものであったか気になり、「本所の四季（95周年記念誌）」を調べてみました。

「お正月がごーざった どーこまでごーざった 両国までごーざった…」という興味深い歌で始まる正月ページからは、以下のような記事を探すことが出来ました。

○門松…毎年12月13日に家の中のすす払いを行う慣例になっていた。それにより、正月を迎える準備としたものである。そこで、すす払いに使う竹、すなわちささ竹が使われ、すす払いのあと家の前に立てるようになり、今日に至っているのであろう。（中略）私たちの記憶では、このささ竹は暮れのうちに各家々に立てられたが、風に吹かれてさらさらと音を立て始めると年の瀬の慌ただしさを待ち行く人々の心をせかせ、子どもはお正月近きを思い、指折り数えていたものである。

○風あげ…昔、今の馬車通りの大徳院（両国二丁目）の入り口に提灯屋があり、そこで子ども用のものから、大人用のものまで各種多様な風を売っていた。男の子はお年玉をもらうと最初に飛んでいったのが、その提灯屋であった。（中略）風向きにより両国橋の上や、今の両国公園、安田庭園前の隅田川べり、千歳三丁目のえいこう社の原っぱは、風あげに興じる子供たちで一杯であったが、今では私たちの知っている風はどこにも売っておらず、また風あげをする子どもの姿もあまり見かけない。

○追羽子（おいばね）…左方より送られてくる羽子を受け、これを右方の次の子に渡し、順次に転廻する遊びで、受け損じて羽子を地上に落とすと、尻を打ち、または紅、白粉、墨などを筆で顔に塗られるのだが、いやで逃げ回るのを追いかけてたりして賑やかである。

尊福公の「一月一日」では「松竹（まつたけ）たてて 門（かど）ごとに…」と唄われ、当時のお正月を祝う風習が表現されています。両國小に門松はありませんが、新年を喜ばしく思う気持ちに変わりありません。また、風あげ、追羽子を例にした昔遊びは、今の時代、生活科という学びの中で、子供たちはその楽しさに触れるようになっています。

さあ、本校の記念すべき開校150周年という年が始まりました。今年一年、子供たちにとっても皆様にとっても素晴らしい年となることを願ひ、冬季休業を明けたいと思います。